



大阪の都市緑化について (御堂筋など)

大阪観光局

0

「大阪のまちづくり」 目指す未来図

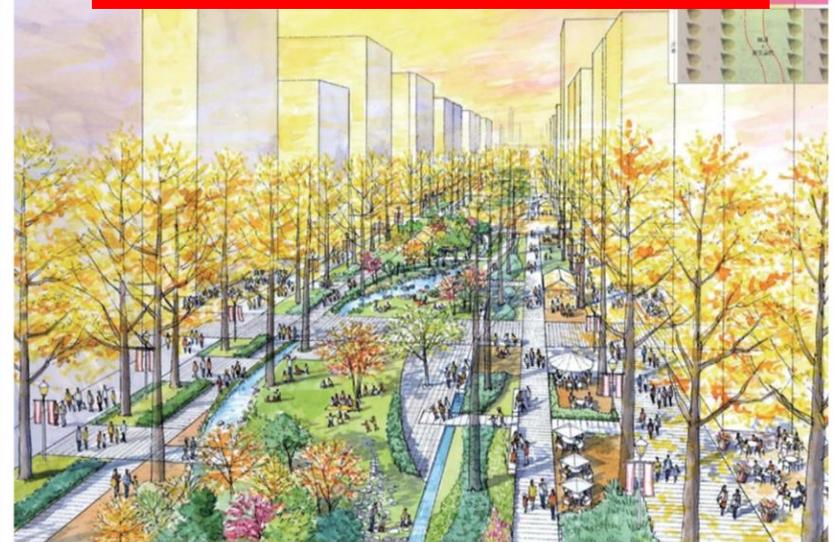
次の100年に向けた大阪全体のまちづくり・緑化の方向性
(梅田～御堂筋～なんば エリアに応じた緑化の検討)



2037年 御堂筋100周年 ターゲットイヤー

- ①ウォークブル
- ②動植物多様性
- ③職住近接QOL
- ④御堂筋の賑わい創出
(音楽・アート・キッチンカーなど)

歩行化に見合った緑化



2024年9月先行オープン
グングリーン大阪
大阪(梅田)から御堂筋へ…
みどりの回廊

**「大阪のまちづくりグランドデザイン」
メインストリート「御堂筋」の役割も変わる！**



6車線から
4車線化

2037年
御堂筋100周年
ターゲットイヤー

ウォークブル
空間も想定



世界は更なる都市緑化へ
踏み出している

2024年9月
大阪グングリーン 先行オープン
(2027年全区間完成予定)



東京は歩行者に優しい
日陰ある街路樹 (表参道の例)



表参道・東京
ケヤキ並木



表参道
日陰のある歩行路

東京 ①大手町

三井物産と三井不動産が新たな緑地空間「Otemachi One Garden」開業

(2022年末、広さは約6000m²)

※内堀通りをはさんで皇居に面する

オフィスワーカーらがくつろげ、昆虫や水鳥が生息できる水辺など、環境面にも配慮。

緑地の確保や生態系の保全是欠かせない要素。

■特徴の一つが「多階層な森」

「高木層」 シラカシやイロハモミジなど

「低木層」 カンツバキなど

「草本層」 ベニシダなど

高木から低木まで約7000本を植え、試算によると、

二酸化炭素 (CO₂) の固定量は年間11tになる。

「ウォーターガーデン」と呼ぶ水辺もあり、

皇居周辺の昆虫や水鳥が生息できるよう設計。



大手町の森



東京 ②その他 (千代田区・港区)

■都心にできる新しい「森」東京都心で近年開業した複合施設では、自然環境との調和をめざす動き

- ①「大手町タワー」(東京都千代田区、2014年) Otemachi Oneに近く、みずほフィナンシャルグループの本社が入る敷地3分の1にあたる約3600m²が緑地
208種の植物の生息が確認され、昆虫も同年までに129種が確認
- ②「東京ポートシティ竹芝」(東京都港区、2020年) 東急不動産と鹿島が開業し、ソフトバンクグループの本社が入るのオフィスタワーでは、2階から6階まで約6800m²のテラスのうち、約1700m²を緑化。
水田や菜園を設け、都市養蜂も実施
- ③「東京ワールドゲート」(東京都港区、2020年) 森トラストが虎ノ門に開業、神谷町トラストタワー(約180m)を囲み、約5500m²の緑地空間「葺城(ふきしろ)の森」を設けた。
敷地内にあった樹齢100年を超えるクスノキを移植して残した。



東京ポートシティ竹芝オフィスタワー
(東急不動産提供)



東京ワールドゲートの「葺城の森」
(森トラスト提供)

フランス パリ市

- オリンピック後に大通りの広大な緑化を計画
- 庭園とシャンゼリゼ通りのロータリーに107本の木
- セーヌ川沿いを含む主要な道路は完全に車が通行止め

2026年までにパリ全体で17万本以上の木を植え、**2030年までに市の50%を植樹地で覆うことを計画。**

シャンゼリゼ通りのリニューアル工事では、2030年までに、通りが「特別な庭園」に変貌を遂げる。

工事完了後は自動車専用道路が**4車線から2車線に減り、歩行者と緑のエリアが新設**され、**通り沿いには空気の質を改善する「木のトンネル」**が出現する予定。



イタリア ミラノ市

- 緑化のみならず生態系そのものを再生し、食糧の自給や環境の改善への解決策として推進

ミラノは今、灰色から脱却し、緑色への変貌を目指している。

2030年までに、300万本の樹を植えようという野心的な計画を立てた。

ミラノは、地上にある緑葉部分を2030年までに**17%から20%の間に増加を計画。**

使われていない貨物鉄道網を7つの公園に作り替え、毎年新たに**25,000本の本木**を植えようという計画も含んでいる。

総面積1,000万㎡に至る家々の**平らな屋根の上に緑**を植え、**2,300の学校の校庭に植樹**を行うことも計画。



韓国 ソウル市

ソウル市の緑地をつなぎ・広げ・増築し、
合計2千kmの「緑の道」を造成

2021年から5年間にかけて、合計1,800億ウォンを投入し、
2026年までに合計2,000km規模の緑地ネットワーク道を市民に
提供。

市は「緑の道プロジェクト」をより具体化して必要な事業をさら
にすすめる基本計画を策定予定。

市民が息づく生活圏に緑の道を拡大させ、多彩な余暇文化を楽し
めるグリーンシティソウルを描く目標。



チュン(中)区チョンドンギル(貞洞通り)

森林産業の循環型の未来

- ・ 森との接点作り <学校、教育現場活用>
- ・ 1次産業のブランドイメージの変革
(ファッション性なども考慮)
- ・ 稼げる新たな仕組み、ネットワーク
(6次産業化)
- ・ 新たな接点 (若者・海外) 手法としてのデジタル・
メタバース

参画する民間企業/団体との連携 ～ 産業の創出へ

- 連携・交流から生まれる、地方の活性化や新たな街づくりのスキーム構築
- 新産業の創造、ESG投資も視野に入れた雇用創出と経済の活性化
- 社会経済システムの新たなイノベティブな事業の創造



- 都道府県の課題・要望を共有**
- 災害対策森林整備、環境整備
 - 1次産業の活用 (林業、農業など)
 - 観光素材提供
 - 過疎地域の活用
 - 環境教育の場所提供
 - 脱炭素化事業推進
 - 各県独自案件提案

政府・関連機関：関係事業分野に関する指導・助言



デジタル技術の価値は「体感」へと進化

- XR・AIといったデジタル技術が急速に発達し、没入空間や自律アバターといった身近な技術となっている
- XR・AIによって、今まで「体感」しないと伝わらないとされていた価値をデジタルで伝えられる時代がやってきた
- デジタル森林浴によるウェルビーイング向上効果や、生産者と消費者の心理的距離短縮等への期待が大きくなっている

没入(イマーシブ)空間による デジタル森林浴等

①森林や海辺にワープ



自律アバターによる 普段会えない人との対話



画像出典・参考:ソリッドレイ研究所 ニュース
https://www.solidray.co.jp/data/news/event/20240226_ayaweek.html

画像出展・参考:NTTデータ 会いに行ける社長

“拡張地域社会”とは

- 「体感」できるバーチャルな場によって、バーチャルに地域社会活動を行う人が増えていくと考えられる。このような人も広義の住民「デジタル住民」と捉え、地場産業振興と地域経済成長の好循環が実現された次世代の社会像



未来への希望

自然との共生

魅力の体感

“デジタル技術”が**林業の課題解決に貢献**する可能性

1

大都市住民にとって、学校・家庭・地域で林業に対して接点が少なく、且つ森林は不足している環境であり、林業はその幅広い価値を具体的にイメージできないのが現状

2

森林や林業を大都市住民が「体感」するバーチャルな場を創出することで本質的価値を訴求し、大都市住民の自律的な行動変容を促す効果が期待できる可能性

3

大都市住民が**森林や林業に興味、接点**を作り段階的に進めるためのバーチャル活用。林業の課題解決をイノベーションの機会とすることができるとの可能性

大都市に居ながら“誰もが参加する”森林づくり

<人間・自然・技術が共生する持続可能な社会>

自然環境等地方の持つ無形資産がデジタル商品化され、活気ある社会を構築
国際ハブとなった大都市で地方の魅力を体感し、豊かな社会を構築

大都市住民が森林・林業と関わる

デジタル森林浴
によるWell-being

森林・林業への
間接的関わり

XR・AI技術に
よる絆の構築

林業従事者が大都市住民と関わる

森林価値の
デジタル商品化

林業の担い手
不足解消

大都市と地方の経済的社会的交流を促すメディア産業

自然保護・伝統継承・未来創造……
特産品NFT・語り部AI・里山文化コミュニティ……

大都市と地方の心理的距離を短縮する技術基盤

XR・空間ビデオ・自律アバター……
NFT・空間伝送・没入空間……